

4 母子，成人，老人保健などに関する試験検査〔臨床部門〕

(1) 年間取扱件数

平成18年度の母子，成人，老人保健などに関する試験検査の取扱検体数及び検査項目数は，表2-4-1のとおりである。

(2) 先天性代謝異常症などの検査

ア 初検の検体取扱件数は，13,619件であった。また，初検において疑陽性又は検査不能検体などで再採血を依頼した延件数は，663件であった（表2-4-2）。

イ 疑陽性389件の中で最も多かった疾患は，クレチン症221件（56.8%）であり，次いで先天性副腎過形成症139件（35.7%），ガラクトース血症18件（4.6%），メープルシロップ尿症9件（2.3%），ホモシスチン尿症1件（0.3%），フェニルケトン尿症の1件（0.3%）であった。初検の段階でクレチン症の6件，先天性副腎過形成症の2件が高値のためにスクリーニング陽性と判定された。また，再検の結果から陽性と判定したものは，42件（クレチン症26件，先天性副腎過形成症14件，ガラクトース血症2件）であり，これらの陽性者については，医療機関に連絡のうえ精密検査を実施することになった（表2-4-3）。

ウ 血液量不足などの理由のため再採血を依頼した検体339件では，出生後1ヶ月又は体重2,500gになった時点で再採血が必要である未熟児（出生時体重2,000g以下）が286件（84.4%）で最も多かった（表2-4-4）。

(3) 血液の一般及び生化学的検査

平成18年度の基本健診の検体受付件数は，1,671件であり（表2-4-1），昨年度より6件減少した。

表2-4-1 年間取扱件数

	総数		平成18年												平成19年		
	検体数	項目数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
先天性代謝異常	14,374	98,114	1,087	1,271	1,198	1,213	1,348	1,163	1,268	1,159	1,219	1,149	1,100	1,199			
血液検査	1,671	30,078	132	138	194	144	144	135	160	135	145	90	125	129			
計	16,045	128,192	1,219	1,409	1,392	1,357	1,492	1,298	1,428	1,294	1,364	1,239	1,225	1,328			

表2-4-2 先天性代謝異常などの検査

	検体取扱件数	正常	陽性	再採血依頼
初検	13,619	12,948	8	663
再検	755	698	42	15
計	14,374	13,646	50	678

表2-4-3 疑陽性，陽性 疾病別内訳

疾患別	疑陽性		陽性	
	初検	再検	初検	再検
フェニルケトン尿症	1	0	0	0
メープルシロップ尿症	9	2	0	0
ホモシスチン尿症	1	1	0	0
ガラクトース血症	18	1	0	2
クレチン症	221	3	6	26
先天性副腎過形成症	139	8	2	14
計	389	15	8	42

表 2-4-4 検査不能検体など内訳

理由	件数
血液量不足	22
採血後10日以上経過	6
血液ろ紙汚染	4
乾燥不良	0
出生後4日以内に採血	1
阻害作用のため判定不能	4
重ねづけのため判定不能	16
未熟児	286
計	339